

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600372
法人名	有限会社 ホスピタルサービス
事業所名	グループホーム 福田はまぼうの家
所在地 (電話番号)	静岡県磐田市福田中島726番地 (053) 428-3331
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年7月12日

【情報提供票より】(平成19年 6月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.4	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3階建て	1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(平成19年 6月 18日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	9 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.6 歳	最低 78 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大橋医院・原歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺には郵便局や公民館、スーパーがあり、町の中心区域の一角に位置しているが、近くには水田もあり、利用者にとっては住みなれた暮らしに近い雰囲気がある。いろいろな生活暦を持ち、人生を歩んできた利用者の、生活リズムが確保されることに力点を置き、経験豊かな職員により家庭的な介護がされている。家族や知人等の面会が多く、職員とも馴染みの関係が出来ており、希望や意見等も言いやすい雰囲気がある。地域との交流も広がりつつあり、今後は地元の人達からの意見も反映させて、一層地域に密着したホームになることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、運営理念等3分野で数項目の改善課題があったが、ケアサービス分野の改善に重点をおき、介護計画の見直し等ケアマネジメント関係の課題に取り組んで、改善に結びつけた。なお、食事や入浴を楽しむことへの支援等の課題については、改善策を検討中であるので、実現を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>新しい職員も多く、評価の意義やねらい等の基本的なことを認識させている所であり、今回の自己評価については、事業所全体を把握している管理者が主体的に実施したものである。今回の一連の取り組みが、評価への理解につながることを求められる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年2月に、市職員、家族代表者が参加して第1回の会合を持ち、会議の目的やホームの運営状況を説明し、意見交換を行った。地域との交流には欠かせない会議であり、自治会等のメンバーを加え、地域密着型サービスにおける事業所運営について、地域の理解と協力を深める場として、会議が活かされることが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所からの呼びかけもあって、家族や知人の訪問回数は多く、職員とは馴染みの関係が出来てきている。訪問時には利用者の日常の暮らしぶりの説明と共に、家族からの要望や意見を聞きだすよう努力している。家族からも、話しやすい雰囲気を評価する声もあり、今後とも意見や要望を大事にして、サービス向上に活かされるよう期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、近隣の人達とは挨拶等日常のお付き合いはしている。幼稚園の送迎バス乗降場所として、ホームの駐車場を提供したり、夏祭り、秋祭りにも参加しており、交流の場が徐々に広がってきているが、なお一層の努力を期待したい。介護事業に対する認識を深めていくためにも、運営推進会議を柱とした、地域交流策が必要であり、今後の課題として取り組みを検討されたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭の延長にあるホームとして、自分らしい生き方、生活リズムが確保できる家を掲げた理念で、利用者本位の、家庭的介護に力点を置いた運営を目指している。	○	利用者一人ひとりを大事にし、その人らしい暮らしを支援する従来の理念に加え、住み慣れた土地で、地元の人達との交流もある地域密着型サービスの役割も反映した理念を、職員共々検討されることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の強い思いが込められた理念であり、利用者本位のケアサービスについて、日常のサービス提供の場面等の機会をとらえ、職員に徹底させている。	○	理念は事業所全体の基盤であり、職員や利用者、家族にも共有される取り組みが望まれる。事業所内への掲出やパンフレットへの記載等職員や家族を始め、地域への浸透についても検討されたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会に加入し、回覧板を回したり隣の隣保とのつきあいがある。地元幼稚園からの要望を受け、園児の送迎時の乗降場所として、ホームの駐車場を提供している。夏祭りや秋祭りにもホームからの働きかけで参加でき、地元との交流が少しずつ広がってきている。	○	交流の機会は広がってきているが、地元からの理解と協力をさらに深めていくことが求められる。運営推進会議を活用し、自治会、老人会等地域の人達との関係を強めると共に、地元の行事等身近で気軽なつきあいを一層積極的にされることを期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新しい職員が多く、評価の意義等基本的な知識を職員に理解させている段階であり、管理者による自己評価結果や外部評価を基に、サービスの質の向上に取り組みたい意向である。	○	評価はサービスの質の確保・向上につなげる絶好の機会であり、評価の意義とねらいについて、職員の理解を深めることが望まれる。ホームの課題については、全員で改善計画を作成し、改善に向けた具体的な取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年2月に市の福祉担当者や利用者の家族代表者等の出席者により、第1回の会議を開催した。会議では事業所の概要や入居状況の説明、及び今後の会の進め方等について打ち合わせた。	○	運営推進会議は、地域との連携を進める上で、重要な役割りを果たすものであると、定期開催されることが望まれる。自治会役員や民生委員、老人会等地域の幅広い人達をメンバーにして、ホームへの理解と協力を働きかけ、率直な意見を聞ける機会が実現することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市及び包括支援センターが主催する会議が毎月あり、意見交換や情報交換が出来る機会が多い。ホームの運営やサービスについて、指導、助言を受ける等連携して取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、家族との面談日を設け、利用者の日常の様子等を報告している。食事や入浴、介護状況等を日誌や記録により分かりやすく説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪される機会に、意見や苦情等を極力聞くこととしている。家族とも馴染みの関係が出来るよう、来訪時には誠意ある対応を心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同系列の事業所間の異動はあったが、利用者への影響には十分配慮し、最小限に留めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体の法人において、採用時研修を始め各種の研修を行っている。レポート提出による意欲付けも本部が行っていて、ホームとしては本部主体の研修施策を支援する取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する福祉施設の会議が定期的で開催され、同業者とは面識が出来るので、電話等による交流がされている。所属法人のエリア会議もあり、情報交換等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者とは事前に面会し、本人の思いや生活暦等を聞くと共に、ホームでの生活について説明を行う。その中で利用開始時の対応を家族とも相談し、体験見学等してもらい、入居時の負担を減らすよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念に、「利用者と一緒に過ごす家」のイメージを取り入れ、利用者の思いに共感できる関係が築かれるよう努力している。得意な生け花を居間に飾ってもらう等、それぞれの利用者の力を引き出し、みんなで楽しみ、感謝し、支えあう関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、利用者の思いや行動を「だめだよ」と否定することのないよう、職員に伝えている。職員は利用者との会話や、家族とのコミュニケーションを大切にし、思いや意向を把握しようと接している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、利用者個別のケアサービス重点目標を作成し、実践していると共に、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヵ月に一度見直しし、作成している。モニタリングも徹底しており、ケアサービス重点目標も作成されるなど、現状に即して作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合などは、家族の状況や都合に応じて、病院への移送、付き添い、また、洗濯物の世話なども対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医とは密接な関係を築いている。また、本人や家族の希望する、馴染みの医療機関でも受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医と話し合い、意向を確認している段階である。事業所としての意識や、対応策等の基本的な方向性を検討していくこととしている。	○	重要な課題であるので、家族やかかりつけ医の思いを把握し、なるべく早い段階で、事業所としての方向性が示されることが求められる。関係者間で意識のずれが生じないよう、早目に話し合いを行う等の対応が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人ひとりの状態に応じた言葉かけをしている。食事介助では、時間がかかっても、むやみに急がせたりしていない。利用者の状態に合わせ、プライドを傷つけないよう、ゆったりと介助している職員の姿が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや行動を大切にして、寄り添った介護をしている。家に帰りたい願望の利用者に付き合っ、家まで一緒に歩いて行き、本人の気持ちが納得できるようにするなど、希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材宅配サービスを利用し、職員が作っている。職員は弁当持参で、利用者とは別な場所で食べている。利用者の中には、職員が作ったり片付けたりするのは、当たり前だという言葉や雰囲気があった。	○	職員と利用者が一緒に準備したり片付けたり、同じ食卓を囲んで食べるなどの、環境づくりを前向きに検討されるよう望みたい。利用者の残存能力を發揮できるよう見守り支えて、気持ちを引き出す工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務体制の関係から、入浴時間については一人ひとりの希望に応えられていない。	○	時間を限定してしまわず、本人の生活習慣や意向を大切に、個別の希望にあった入浴支援が少しでも出来ないか、試みることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字の得意な方が、歌を書いて掲示したり、お花の先生が花を生けて飾ったりと特技を生かしている。また、モップ掛け、お茶碗拭き、洗濯物たたみなどできることを分担している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけている。時には、回転寿司やラーメン屋に食事に出かけたり、牧場や季節の花を見に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関に施錠している。職員は利用者の気持ちを把握し、居場所を常に見守れるようにしている。利用者が出かけようとする時には、無理にとめないで、一緒に出かけるようにしたりして支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自主防災組織には加入しているが、防災訓練には参加していない。ホーム内では屋上への避難訓練等を実施した。	○	施設は3階建てと近隣では一番高い建物であり、津波が予想される場合、屋上に避難が出来る利点がある。避難場所の提供を働きかける等、地域の自主防災組織との連携を図り、いざと言うときの協力体制を確かなものにしていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取量は、介護記録に記入され把握している。利用者の体調や好みに応じて、飲み物を用意するなど気を配っている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテーブルには、季節を感じさせるメロンが飾られていた。また、七夕飾りには、一人ひとりの自由な発想の願い事が書かれていて、「みんなのうち」という楽しい雰囲気を感じさせられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には故人の写真、位牌、鈴、鈴棒など仏具の置かれている部屋もあり生活暦を感じた。また身体が不自由で床移動の利用者の部屋は危険回避の為、寝具のみであり安全に気を配っていたが、寂しくも感じた。		